

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 50

2022年4月発行

令和3年度 冬季企画展

昔の暮らし、電気のある暮らし

旧植田家だより50号記念

指定管理4期目 始動！

年末恒例!?

おもちつきの会

「五十がば回れ」マンジークンプレゼントクイズ企画！

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十四)」



展示のご案内



- 企画展「ぐるり春夏秋冬、雪月花」2022年4/29(祝・金)～7/11(月)
往時の旧植田家住宅の座敷を彩った四季折々の掛軸を一堂に展示。途中一部展示替えを行います。
- 通常展「大和川付替えと植田家の收藏品: ちょっと茶道具」7/15(金)～9/12(月)
大和川付替えの歴史や旧植田家に関連するパネルと一部收藏品を展示します。

※休館日は P15 をご覧ください

Contents

- 4 | 令和3年度 冬季企画展
昔の暮らし、電気のある暮らし
- 6 | 座敷でゆったり講座3
古民家の今とこれからを考える
- 7 | こども昔暮らし体験 -冬編-
& 旧家で暖家支援
- 8 | 旧植田家だより 50号 記念
指定管理4期目 始動!
「五十がば回れ」マンジークンプレゼントクイズ企画
- 10 | 年末恒例!? おもちつきの会
- 11 | 日日植田家住宅 第7日:石臼珈琲、試してみる
- 12 | 四会所だより(30) 四会所の案内
- 13 | 植ちょピ
- 14 | コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十四)」
- 15 | 旧植田家住宅のご案内



表紙写真



ギャラリーにて
バックナンバー
配架中(一部)

※『旧植田家住宅だより』の
バックナンバーはホームページ
からダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

ちょっと昔の電球

大阪に初めて電気(電灯)が点いた明治時代、その後八尾市内にも電気がやってきた。昔の電球のガラスは今と比べて先端が少しとがっています。冬季企画展「昔の暮らし、電気のある暮らし」は4-5頁を参照。



旧植田家にある昔の家電を集めました。

電化!



電子ジャー

電化!



電気炊飯器

昔のくらし、

「冬季企画展」

電気のあらくらし

電化?



冷風換気扇

電化!



レコードプレーヤー

電化!



電気ヤグラコタツ

電化!



角型七輪(電熱器)

令和4年(2022)

1/5(水)~3/21(月)

令和3年度 冬季企画展

昔のくらし、電気のあらくらし

電気を使うことが当たり前の現代にあつて、電気をほとんど使わなかつた時代のくらしとはどのようなものだったのか。あるいはその頃と今の道具との違いは何か。旧植田家住宅では、江戸時代から平成元年頃まで植田家が生活し、のこされた数多くの生活道具などから昔のくらしを知ることができる。

現在、毎日使っている家電製品のほとんどは昔の道具が「電化」したものと見える。電化とは、ご飯を炊く羽釜とカマド、明かりの蝋燭やランプ、衣類のしわを伸ばす火のしや炭火アイロンなど「電気を使わない道具」を電気のできるようにしたもので、炊飯器や電灯(電気の明かり)、電気アイロンなどは「電化製品」と呼ばれる。また本企画展では、電気がいつ頃やってきて、どのように広がっていったのかを旧植田家住宅にのこる電化製品と電化前の道具とを比較して展示を行なった。

【電気の普及と電化へ】

八尾に初めて電気が来たのは明治の終わり頃。その後、供給地域も徐々に拡大されていく。

くらしの電化



豆炭行火→電気行火



履物+行火→足温器



電気アイロン各種

食の電化



竈+羽釜→炊飯器



飯ぶご→電子ジャー

情報・娯楽の電化



真空管ラジオ



マイクロテレビ



映写機

健康の電化



珍品!?幕末の電気治療器



蠟燭+燭台、置ランプ
→電気スタンド

明かりの電化

八尾に電気がやってきた!

2/11(祝・金) 展示解説の日



大正初期の電灯代領収書ほか



大正～昭和時代の扇風機

【展示解説の日】音楽の電化!
2月11日(祝・金)、「展示解説の日」を開催。学芸員による企画展の解説と電化にちなんだ電子楽器テルミンの演奏を行なった。当日4回約30分の内容に、いずれも10名ほどの参加者が集まり、「非接触の楽器」を楽しんだ。

一般家庭に電気(電灯)が広く普及したのは大正時代の終わりから昭和にかけてで、当時の電力会社が電気の安全性や利便性を粘り強く大衆に訴え続けた背景がある。
今ある「扇風機」も当時電気の普及に一役買ったという。また「明かり」は時代によって様々な制度が設けられ、電気の普及とともにいわゆる電化製品の登場を後押しした。本展では「明かり」「食」「くらし」「情報・娯楽」「健康」の各電化について紹介し、当時では最新、今ではちよつと珍しい電化製品の数々を展示した。
小学校3年生の「昔のくらし」学習の一助になればと毎年企画する昔のくらし関連展示であるが、最近では大人も学習が必要な時代になってきている。新しいことを発見するように古いものに親しんでもらえる機会になればと思う。
(学芸員 安藤亮)

ざしき 座敷でゆったり 講座 こう ぎ

(全3回)

風通しの良い古民家で



ゆったりと地域の歴史や文化に耳をかたむける。

第3回 古民家の今とこれからを考える

— 生きた重文民家の継承に向けて —

12/12

(日)



重文民家の継承を伝える碓田氏

座敷でゆったり講座3

「古民家の今とこれからを考える」

「座敷でゆったり講座」第3回目は、「古民家の今とこれからを考える—生きた重文民家の継承に向けて—」と題して、大阪教育大学教育学部教授の碓田智子氏を講師に迎え、重文民家の現状と活用についての話を聴いた。

まずはじめに「重文民家」とは、文化財保護法に基づいた国指定重要文化財のうち近世以前の「民家」に分類される建造物で、重文建造物二五〇九件のうち三五六件(2020年10月現在)がこれに該当するという。その約6割が現在も住んでいる個人所有の住宅で、形式では農家系が約60%、町家系が約30%あり、地域のコミュニティに深く関わる「生きた民家」として継承されている場合がほとんどである。こうした重文民家の所有者有志の団体として1977年

に特定非営利活動法人

「全国重文民家の集い」

が設立され、情報交換をはじめ学識経験者や行政、地域も関わって貴重な文化財の継承を目的に活動が行なわれている。

本講座のテーマであり重文民家の継承における問題について碓田氏は大きく3つの課題を提示。各々の重文民家が抱える課題は全く同じものではないが、「所有者の高齢化」や「建物の大規模修理と費用負担」、「日常の維持管理」が重文民家の継承を困難にしているという。さらにこれらを引き継ぐ後継者の問題についても指摘。所有者個々人で守っていかなければならない部分がある一方で、国や自治体など公の力(理解)が必要であるということを考えさせられた。

最後に課題解決と重文民家の未来に向けて、イギリスの伝統ある「歴史的住宅協会」から、そのヒントとなる取り組みについて学んだ。最も大事なのが「家族(パートナー)」。次いで「地域のコミュニティ」「将来計画」。その上でチャレンジ精神が必要であることを碓田氏は強調され、教育の観点から重文民家の継承の課題に今も取り組まれている。

(学芸員 安藤亮)



各所にある重文民家を紹介

こども昔くらし体験 - 冬編 -

夏に実施した「こども昔くらし体験」の冬編を冬真つ只中の12月11日(土)に行ないました。今回は夏に比べて参加者が多く、コロナ対策も万全の中、まずは土蔵2(講座室)でこどもたちに冬のイメージについて聞いてみました。

冬といえばやはり寒いのは当然ですが、クリスマスやウィンタースポーツなど楽しいことも多いようです。そんなイメージとは真逆の昔の家の冬のくらしを早速体験してもらいました。

今回はまず初めに昭和の電気こたつに入りながら建物や暖房について説明。火をよく使う昔のくらしについて学ぶと、次は実際にかまどの火入れや火鉢も体験してもらいました。

何かと忙しい昔のくらしの中で、石臼での粉ひきにも挑戦し、寒くても楽しい時間を過ごすことができました。ちなみに冬の洗たく体験を見送ったのはいうまでもありません。



電気こたつで座学

昔の暖房体験



火鉢を囲むこどもたち

こども昔くらし体験

2021年12月11日(土)



ふゆ冬編



あったか旧家で暖家支援

ういずコロナ...



2022年1月9日(土)~3月6日(日)

旧家で暖家(あったか)支援

夏の納涼企画「冷やし旧家、はじめました。」の冬バージョン、冬限定企画「旧家で暖家支援」を今冬も実施。座敷と仏間の2か所に電気こたつを設置し、机の上で将棋やオセロ、トランプなどいろいろな昔の遊びが体験できます。前回に続きコロナの影響で中止しましたが、この企画では温かい飲み物も平時は販売しています。

さて期間中はというと、連日「暖」を求めて近くの子どもたちがやって来ました。こたつで遊んだり宿題もしたり、すっかりルールと時間を守ってこたつ時間を満喫。貸出の遊び道具の中で意外に人気だったのは「明治時代の双六(複製)」。読めない字だらけにも関わらず、かなり楽しそうな様子でした。コロナによる制限がありつつも、子どもたちにとっては「こたつ」だけでもイベントになっています。



座敷2の電気こたつ



仏間にも電気こたつ

おかげさまで指定管理4期目 旧植田家だより 50号発行。

そしてマンジーくんも50回

旧植田家だより 50号記念

指定管理4期目、始動！

5年に一度の施設指定管理者の公募を経て、このたび第4期目の指定管理者となり14年目に入りました。同時に開館当初より発行を続けています「旧植田家だより」も今回で50号となりました。まずは皆様に深く感謝を申し上げます。そして今後も何卒よろしく願いたします。

【40号からのふりかえり】

さて、前回の40号(2019年4月)記念「いつの間にか、10周年」から、いつもと変わり映えのない紙面のまま3年が経過しましたが、その間コロナ禍によって私たちの生活は激変しました。多くの人がマスクを着け、人と物理的距離をとり、笑って会話し一緒に食事することもためらわれます。新しい時代に対応していくことも大事ですが、今までのくらしや想いも文化財とともに伝えて行きたいと考えています。

【八尾で降りたら、最初に会所】

そこで新たに4月から「八尾で降りたら、最初に会所」をコンセプトに、駅近の利便性を活かし、文化財を結ぶ拠点の一つとして「文化観光」を念頭に置いた旧植田家住宅の活用を目指しています。施設周辺の文化財情報の収集やまち歩きマップの配布、まち案内なども行い、かつての会所の役割を今に生かすことができればと思います。しばらくコロナ対応は続きますが、近くにお立ち寄りの際は、ぜひ気軽にお尋ねください。入口を広くし、いつもの者がお待ちしています。

(指定管理者 NPO 法人 H I C A L I)

【40号から50号へ】

40号(2019・4発行)



41号(2019・7発行)





48号(2021・8発行)



46号(2020・12発行)



44号(2020・4発行)



42号(2019・10発行)



49号(2021・12発行)



47号(2021・4発行)



45号(2020・8発行)



43号(2020・1発行)

「五十がば回れ」

マンジークンプレゼントクイズ企画!

今回は植田家だよりの50号と「マンジークン」50回目を記念して、オリジナルグッズが当たるクイズを出題。正解者の中から抽選で、貰って微妙な「マンジークン缶バッジ7種セット1種含セット」を1名様に、「マンジークン特製単行本(手製)」を2名の方にプレゼントします。「応募要項」をよくご覧の上、本企画に同意いただける方のみご応募下さい。

【応募要項】(応募締切:令和4年7月31日)

- ・クイズの答え、希望コース、住所、氏名、年齢、電話番号」を明記し、Eメールか官製はがき(年賀状の余りでも可)でご応募下さい。応募は一人一回限りとします(複数の応募は無効。)
- ・宛先は本誌15頁「お問い合わせ」欄を参照。
- ・施設宛て「マンジークン係」(件名)まで。
- ※当選者の発表について・・・

「植田家だより51号」(8月発行)にて都道府県とインシヤルを掲載予定。発送は発表後です。

●クイズ : 次の4コマが掲載された『植田家だより』の「^{ナンバー}号数」の「合計」は?
(ヒント: 答えは「50」ではありません。バックナンバーをたどって探してみてください。)



+



= ○○ (数字)

⇐正解が分かった方は、

プレゼント

☆正解者の中から抽選で、どちらか1コースのみ(複数の応募は無効となります)



Aコース: 1名様
「マンジークン缶バッジ7種セット」

※写真は制作中のイメージです。実際とは異なります。



Bコース: 2名様
「マンジークン手製単行本」

※イラストは制作予定のイメージです。

び、微妙...

年末恒例!!

おもちつきの会

旧植田家住宅開館当初の2009年から毎年行い、昨年度は新型コロナウイルスのため中止した年末の恒例行事「おもちつき大会」をコロナ禍の2021年12月18日(土)に「おもちつきの会」として、スタッフだけで行いました。例年100名以上が参加する行事だけに期待と不安を胸に入念な準備で当日を迎えました。

今回はもち米の量を減らし、「もちつき」と「鏡餅」を作るのが目的のため開催時間は短く、要員もいつものメンバー(11名)だけで和気あいあいとした雰囲気でした。さて開催時間が近づくと、いつもなら一般参加の行列ができるはずが、待てど暮らせど誰も来ません。その後、2組の親子連れが見学ともちつきの体験に参加してくれましたが、おもちつきの会は滞りなく終了していききました。

コロナ禍で仕方のないことですが、「食べない(見るだけの)もちつき」はやはり人が来ない?でも無事開催できたことに感謝!
(スタッフ)

2021年 12月18日(土) 10:30~12:00 ころ
※もちの試食・配布はありません。

お餅つきと鏡餅作りの様子を見学できます!

かみもち
鏡餅作りの様子を見学できます!

入館料 一般 二五〇円
高校・大学生 一〇〇円
中学生以下は無料

かもち
臼

〇〇に火を入れ、
〇〇で蒸したもち米を
〇〇と〇〇でおもちにします。

杵
蒸籠

安中新田 旧植田家住宅
会所跡 大阪府八尾市横松町一・二・二五
JR八尾駅・南口を出て東へ徒歩約三分

むかしのくらし体験

おもちつきの会

指定管理者: NPO法人HICALI

お問い合わせ ☎072-992-5311 ✉info@kyu-uedakejutaku.jp



竈と蒸籠でもち米を蒸す

よいしょー!!
(マスクの中で)



もちつき前の準備作業



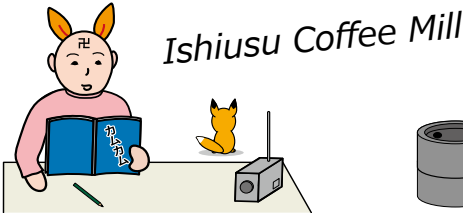
2年ぶりのおもちつき



滞りなく予定通り終了

雑記帳
旧植田家住宅
 - 日常から日用まで -

第7日:石臼珈琲、試してみる。



【旧植田家住宅事業(事前)体験交流会】

市内文化財関連施設を対象に「旧植田家住宅で実施する事業(イベント)を当日または事前に体験してもらい情報共有と交流を深めることを目的とする会」略して「旧植田家住宅事業(事前)体験交流会」を今年度2回行い、2回とも関連施設からの参加がないまま終わりました。これに懲りず次年度もまた呼びかけたいと思いますので、関係者のみなさん、どうぞご参加をお待ちしています。

【石臼珈琲、試してみる研修】

さて、3月6日(日)に実施予定の事業「石臼珈琲体験」の予行演習として、「事業事前体験交流会(前述)を兼ねた内部研修を2月21日(月)に行ないました。当日のスタッフと大阪教育大学教育コラボレーション演習の学生2名が参加し、当日とほぼ同じ人数、同じ時間帯でスタート。

石臼珈琲のイベントはすでに何度も行なっていますが、年一回のため毎回確認が必要。とくに七輪での炭火熾^もしの時間は、全体のタイムに大きく影響するためいつも試行錯誤し四苦八苦しています。



煎り終わった後の七輪の炭火は火鉢へ



珈琲豆を選(よ)る、煎る...



豆の色が茶色に変わる

今回も研修とはいえ、「珈琲の話」から「豆の選別」までの時間(約15分)は七輪と格闘し、ようやく煎る・挽^ひく・淹^いれるまでたどり着いた頃には、やっぱり2時間が過ぎていました(植田家より47号参照。本番ではどうなるか分かりませんが、「試してみること」と「試して、見ること」の必要性和楽しみを味わい無事研修を終えました。さて3月に入り「石臼珈琲体験」は、新型コロナウイルスによるまん防延長のため、敢え無く中止となりました。ただただ楽しかった研修で終わらせることなく、来年は皆さんにもぜひ味わってほしいと思います。

四会所だより (30)

大阪府四会所【基本情報】

今回の「四会所だより」は、順番でいくと大東市の平野屋新田会所の回ですが、長引く新型コロナウイルスの影響で四会所交流がしばらく開催できていなかったため、大阪府内の四会所の基本情報を再掲載したいと思います。楽しみにしていただいております皆様には大変申し訳ございません。

なお二〇二二年度の活動報告としては、「四会所交流会」のほか、大東市で開催された平野屋新田に関する大規模な展示において四会所の紹介も同時に行なっていたいただきました。今後は四会所ならではの企画も検討していく予定です。

現在四会所巡りスタンプラリーは継続中ですので、ちよつと一息、会所巡りをお楽しみください。

(安中新田会所跡旧植田家住宅 安藤亮)



国指定史跡・重要文化財

- 鴻池新田会所 (東大阪市)
 - ・ JR 鴻池新田駅下車 徒歩5分
 - ・ 9:30～17:00(月曜休館)
 - ・ 大人300円、小中学生200円
 - ・ お問合せ:06-6745-6409

※「四会所だより (27)」掲載情報より



「集印 大坂四会所巡り」のチラシ
(作成：平野屋新田会所市民サポーター会議)

大東市指定文化財

- 平野屋新田会所跡 (大東市)
 - ・ JR 住道駅下車 徒歩25分
 - ※スタンプは大東市立歴史民俗資料館にあります。
- 大東市立歴史民俗資料館
 - ・ 大東市野崎 3-6-1 (来ぶらり四条 2階)
 - ・ JR 野崎駅下車 徒歩15分
 - ・ 9:30～19:30 (第1・3火曜休館)
 - ・ 入館無料
 - ・ お問合せ:072-876-7011



大阪府指定文化財

- 加賀屋新田会所跡 (住之江区)
 - ・ Osaka Metro 住之江公園駅下車 徒歩15分
 - ・ 10:00～16:30(月曜休園)
 - ・ 入園無料(加賀屋緑地内)
 - ・ お問合せ:06-6683-8151(管理事務所)

八尾市指定文化財

- 安中新田会所跡 旧植田家住宅 (八尾市)
 - ※情報は本誌 15P に掲載

マンジークン

安富士 暁



「植田家住宅の・ちよっとした・トピックス」

植ちよぴ。(ックス)

①「旧家で記念撮影く新年・成人の日」

≪2022年1月5日(水)〜30日(日)≫

ここ数年、年明けは新年と成人の日を祝う「旧家で記念撮影」を実施。新型コロナウイルスの影響で祝いのムードは薄れているが、それでもやはりめでたく、今年は特に昨年末のおもちつきで作った「鏡餅」と旧植田家に伝わる「鎮宅霊符」の正月飾りで、いつもの正月が迎えられた。

また今年はコロナの影響で成人式の時間等も例年とは違ったが、来年は成人年齢引下げでさらに状況が変わると予想される。来年も新年があければぜひ記念撮影にご来館ください。

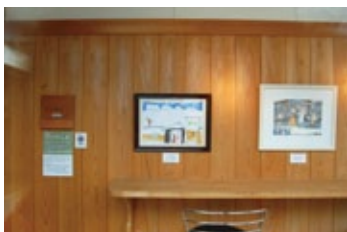
②「ギャラリー展示2021」を開催

≪2022年1月5日(水)〜31日(月)≫

毎年「新旧大和川と新田会所・周辺の風景」をテーマに作品を募集し、ギャラリーで展示。今回は8名の応募があり、最年少は6歳の植田家大ファンの子。「すごいぞ旧植田家」のタイトルで作品を応募してくれた。旧植田家住宅の建物、古民家、水路、駅周辺など、いつもの見慣れた風景が新鮮に感じられた。次回も11月ごろより募集予定。



①床の間の鏡餅と正月飾り



②ギャラリー展示 2021の様子

③「旧家で記念撮影くひな祭り」で変身!?

≪2022年2月23日(祝・水)〜3月21日(祝月)≫

最近はお雛様「八尾」で検索すると旧植田家住宅がヒットし、参加者も増加。座敷でゆったりと記念撮影する親子にじっくり写生する大人も。今年は手製のお雛様変身セットをスタッフ作り、密かに楽しんだ。来年からは運用できるように準備中。



③お雛様に変身?するスタッフ

◆中止になったイベント◆

1月

・こどものためのお茶会(協力・女性会)

2月

・旧家で芸能伝統文化く落語の会く

(出演・素人寄席天満天神の会)

3月

・講演会「伝統的な住まいで受け継がれてきた暮らし」(講師・谷直樹氏)

落穂拾い

一 今東光の董風 一 (四十四)

文・伊東健

大東市と四条畷市が共同で具申していた飯盛城跡が国史跡指定になったことが、二〇二一年十月に官報で正式に告知されています。

飯盛城跡には、その後の城造りに欠かさない石積みの痕跡が残っている等、史料価値の高いものですが、ここに根拠を構えた三好長慶という戦国武将についても、近年再評価の機運が高まっています。

今東光が河内キリシタンを描いた作品「生きるマンショ」は以前に紹介しましたが、この飯盛山に城を築いた様子も活写していました。以下に引用します。

三好長慶は殆ど天下の権を掌に納めると、京都という諸国の英雄が望みをかけ、近国の梟雄があわよくば乗取ろうと働きかける陰謀の巢窟のような都に居るよりも、随時に故郷の阿波から大軍を招き寄せる

便をも勘案して河内の飯盛山に城を築いた。生駒山系が南北に伸びるその北端に突兀とつととして飯盛の小丘が聳え、脚下には満々たる深野池を見おろし、四条畷の村落が点在する。その外堀のような役目を果しているのが生駒山の裾を洗っている大和川だ。この要害には三好の重臣等がそれぞれに塞を築いて前衛的役割を果していた。

(昭和三十八(一九六三年)二月十五日
文藝春秋新社発行「生きるマンショ」より)

まだ四十代の壮年期であり、織田信長登場前に天下掌握を目前にしていた三好長慶を襲ったのは、跡取りと目していた義興の突然の死であり、それを招いたのが最側近にいた松永弾正久秀であったという悲劇でした。東光は長慶の心情を以下のように描きます。

長慶は非常に落胆した。兄弟でもあればともかく、たった一人の跡取り、それも賢明で後事を托するに充分と思われる義興を喪った打撃は、何十倍もの敵よりも傷手を負わせた。実弟の讃岐にある十河そごう一存の子義継を養子に迎えたが、まだ四十三歳という

長慶は茫然自失して、殆ど痴呆の状態となったと伝えられている。功名も天下の権も何と儂いものであろう。いとしい吾が児のことを想つと彼は生きている気もなかつたに違いない。蠟燭の灯が消えるようにその短い華やかな生涯を終った。

この英雄の墳墓は八尾市の亀井の真観寺に今も現に残っている。私はこの墓に詣でて往時茫茫と胸に去来する英雄の心中を想察し、いかに人の命とは儂いものかということを感じずにはいられた。わが愛児をも殺して涙一滴こぼさぬ戦国乱世の時代にあつて、愛児を喪つたばかりに痴呆となり、しかも為さねばならぬ仕事を悉く放棄して、卒然として死んでいった男は愛情こまやかな人物と言わずばなるまい。この故に私は三好長慶という人物を愛さずにはいられない。その石碑には永祿七甲子年七月初四日とあり、聚光院殿大禅定門と刻まれている。(前掲書)

歴史にイフは禁物ですが、三好長慶が生きていけば、信長の登場はまた異なったものになったかもしれないと思うと、歴史とはつくづく不思議なものです。

旧植田家住宅のご案内

【2022年5月～8月】

これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」
 // 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

2022年

◎4月29日(祝・金)～7月11日(月)
 春季企画展「ぐるり春夏秋冬、雪月花」

◎7月15日(金)～9月12日(月)
 通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」

コロナ対策(マスク着用・3密回避・手指消毒など)にご協力よろしくお願ひします。

展示、イベント等のお知らせは
 ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



イベント

(詳しくはお問い合わせください)

5月 7日(土) 旧家で芸能伝統文化～乙女文楽の世界～
 ★5/1(日)～29(日) 旧家で記念撮影～こどもの日～

6月 6月～8月 植田家ボランティア養成講座(全3回)

7月 ★7/17(日)～9/4(日) 旧家で記念撮影～夏休み～
 ★7/17(日)～9/4(日) 納涼企画「冷やし旧家、はじめました。」
 23日(土) こども昔くらし体験「夏編」
 ★7/30(土)～9/4(日) 特別企画「旧植田家Zoo(ずー)宅2022」

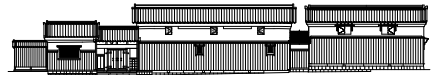
8月 3日(水)・20日(土) 土蔵でクラフト
 下旬(開催未定) 夏のお茶会

※予定は変更する場合があります。



休館日カレンダー

■ = 休館日



5 May

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6 June

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

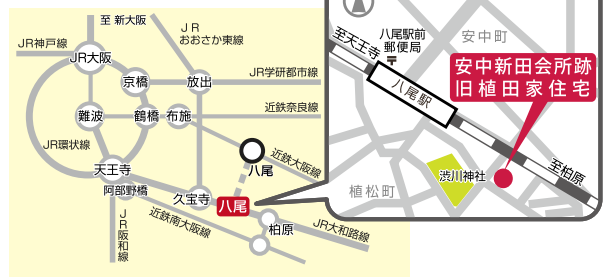
7 July

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8 August

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

【交通案内】



- ◇ JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
- ◇ 近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
 JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分
- ※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。

- 開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
 (詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)
- 入館料：一般250円(団体20人以上で120円)
 高校・大学生120円(団体60円)
 ※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料
- お問い合わせ・見学のご相談(ご予約など)
 〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25
 TEL/FAX: 072-992-5311
 E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

#編集後記(4・23)

まだまだ続く新型コロナウイルスウィルスによる生活への影響。当初は収束・終息までに10年をはかるといわれ、一方でワクチンと治療薬の開発によってある程度以前の日常が戻ってくると思われていました。▽現在の状況はどうでしょうか。第6波が完全に収まるどころか第7波が目前に迫ってきています。いま本誌の締切りが目前に迫っています。さらに展示替えや年報の締切りも控えています。地道に終わらせていく他ありません。

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

